

スペイン語リーディングの授業について

— 多読活動とグループ学習 —

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 江澤 照美

スペイン語多読について報告者が今年度おこなった活動について報告する。

今年度も研究所予算にてスペイン語多読図書の実践のための図書購入を実施し、アルバイト学生を雇用して新規購入図書のワード数を計測・記録した。

昨年度後半から今年度前半にかけて、自らの個人的な仕事の遂行のために、平成 22 年度から筆者が本研究所のバックアップのもとに企画・実施してきたスペイン語多読活動は、その進行ペースに大きなブレーキがかかってしまったことは否定できない。幸いにも昨年度からインターネット・ポートフォリオシステム manaba を利用した多読課題提出システムを使って、スペイン語圏専攻 2 年生必修科目「スペイン語II(講読)」の受講生に半期に 1 度の課題提出を課すことができたので、今年度も前期・後期ともに manaba 経由でのスペイン語多読課題を 2 年生全員に与えた。昨年度と同じく、2 年生 a クラスの担当者である岡見友里江先生にご協力をいただいたので、今年度も筆者担当の b クラスと両方で同じ課題を出すことができた。

前期履修登録者 a, b クラス合わせて 56 名のうち、課題未提出者はわずか 3 名だけであった。今年度の評価提出が評価の 10% に相当するのは昨年度と同様であるが、それにしても 67 名中 52 名が課題を提出した前年度前期と比べると驚くべき数字である。現在の 2 年生はグローバル人材育成推進事業の恩恵を入学時から受けている学年であるが、この結果も自律的な外国語学習に慣れた学生たちだからなしたことなのだろうか。もちろん、このような半期分の結果だけで結論を出すのは早計であり、今後も学生の課題提出状況やその内容について調査と考察を継続したい。

課題提出用の多読図書として位置づけていないので語数やレベル表示をしていないが、昨年度に続いて今年度も日本のアニメのスペイン語版を少数ながら購入した。これはスペイン語版に限らず、どの言語のものでも図書館の多読コーナーに置いてほしいという学生の要望は高いようである。スペイン語版ももう少し蔵書数を増やしたいのだが、一冊あたりの価格が高いため実現できずにいる。

さて、今年度筆者は後期の講読の授業においてもう一つ新しい活動を試みた。グループ学習の導入である。これを始めるきっかけとなったのは前期の講読の授業用に選んだテキストの難易度がやや高かったことである。1 年次に学習した文法事項がしっかり身につけている学生の実力を伸ばすには非常によいテキストであったが、文法をしっかりと覚えていない学生にとってはかなりの難物となったようである。

2 年生のスタート時点で受講生の中に学力差がすでについているのは毎年想定される事態である。この事態の改善は容易なことではないが、少なくとも教室では学力のある学生もそうでない学生もともに語学力を伸ばしてもらわなければならない。そこで、学力がある学生に説明をさせることでその学生の知識の定着を促進すると同時

に、ちょっとした言い回しなどがわからないために文の解釈に頭を悩ませている学生の疑問を解消する方法として、グループ学習の導入を決定し、後期から試験的に筆者担当のbクラスにて実施を試みた。

後期は28名の学生が履修登録したので、出席者の数に合わせて4つまたは5つのグループを作り、毎回進度があらかじめ定められているページについて難しく感じた個所や文法的解釈について各グループ内で相談によって解決を図らせた。

グループ内での相談にもかかわらず解決できなかった問題についてのみ、各グループのまとめ役の学生に簡単な報告をしてもらい、授業の後半は筆者が各グループから寄せられた問題点を紹介し、必要に応じて解説をした。グループ学習としては比較的単純なものであるが、テキストの中で少し難易度が高いと思われる構文については複数のグループがそれを報告するので、多くの学生にとって難しいと思われる個所について教員と受講生全員が確認できた。

また、教師が特定の学生に指名するよりも前に、グループ内で話し合うというスタイルは学生にとっても気楽に質問しやすい雰囲気があるようで、前期は黙りこくっていたことの多かった学生たちがグループ学習では熱心に話し合いをして難しい個所の確認をしあっているのが印象的であった。

本稿は後期試験実施前に執筆しているため、この活動の試みが受講生の成績に与える影響については残念ながら報告することができないが、クラス全体の成績のかさ上げにつながることを期待したい。

グループ学習で扱う題材はあまり易しすぎないほうがいいと考えられている。講読の授業でも、複数の学生が知恵を寄せ合うことでささいな疑問点はすぐに解決されるし、多少難易度が高い文でも彼らの力で読み取ることができるかもしれない。実際、これまでの10数回の授業の中で、複数のグループが特定の構文の難しさをレポートしてきたことは何度もあったが、4つないしは5つのグループ全部がこれはよくわからない文であると指摘した文章はなかった。講読の授業でのグループ学習導入は、与えられた課題を皆で力を合わせて解決し、その過程で語学力を向上させていく行動中心主義的な外国語学習の効果的な実践となりうると筆者は考えている。特にその大多数が短期長期の留学を経験し、3年次からはスペイン語の原書を読むゼミを履修し、また卒業時までにはCEFRのBレベル以上の語学力獲得が望まれる本学のスペイン語専攻学生には、多少難易度が高い文章にもひるまずチャレンジする精神を培ってもらう必要がある。グループ学習の進め方についてはまだ試行錯誤しているが、多読活動と合わせてより多くの効果が期待される講読の授業を今後も模索していきたい。